備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成９年度～	根拠法令・例規等	介護保険法
総合計画	大項目	基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室）	備前さつき苑事務部
	中項目	基本施策	02 健やかで生き生きしたまちづくり	職・氏名	事務長　難波　巧
	小項目	施策	07 病院事業	電話	0869-63-9300
事務事業名			07 訪問看護事業	このシート作成に要した時間	3.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	疾病・負傷により、居宅で継続して療養を受ける状態にある者で、主治医が訪問看護を必要と認めた者。また、介護保険の要支援・要介護認定を受けた者で、介護支援専門員が必要と認めた者。
目的（何のために）	在宅療養者の家庭における療養生活を支援する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	在宅療養者の心身の機能の維持回復を図る。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
訪問看護事業	病状観察、看護技術･栄養・食事療法・ﾚﾊﾋﾞﾘ実施相談指導、生活環境調整指導、連絡調整	◎

事業費等		単位	平成20年度実績		平成21年度実績		平成22年度実績	
事業費	直接事業費	千円	3,577		3,418		7,023	
	必要人員　人件費		4.01人	14,065	2.98人	17,030	3.02人	12,664
	事業費計		17,642		20,448		19,687	
決算額 財源	国県支出金	千円	17,590		20,344		19,621	
	受益者負担		52		104		66	
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源							
受益者負担比率		%	0.3%		0.5%		0.3%	

結果指標名	単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
	説明	備前さつき苑からの訪問看護サービスを受けた年間延べ人数		
結果指標 結果指標量	人	2,361	2,676	2,439
対前年比	%	－	113.3%	91.1%
活動コスト	円	17,642,000	20,448,000	19,687,000
単位当たりコスト		7,472	7,641	8,072

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
職員一人１日あたりの看護件数	目標値（A）	3.3	3.3	3.7	
	実績値（B）	3.21	3.64	3.31	到達目標値
	達成率（B/A）	97.27%	110.30%	89.46%	

成果指標設定の考え方・式や説明

意図とする成果の指標として、看護師一人当たりの訪問件数をみる。
年間訪問件数／3人（看護師数）／245日（年間 245日で換算）

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- 必要性
  - ☑ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
  - ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
  - ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- 市民ニーズ
  - ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**B**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☑ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**C**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☑ 成果指標の設定は適切である
  - ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- 市民参画度
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
  - ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

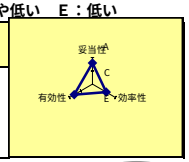
説明：地域サービスの向上を図りながら、単位当たりコストの削減に努める。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

事業の目的・対象・手段は、法律あるいは主治医の指示で定められており、評価対象としては実訪問看護時間が妥当と思われる。より効率的なサービスの提供を目指し、ステーション内で検討することにより、一層の成果をあげることが可能と思われる。また、単位当たりのコストが増加傾向にあり、経費の節減に努めなければならない。

評価区分 <A～E>：**B**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：地域サービスの向上を図りながら、単位当たりコストの削減に努める。